

県内9か所の農業改良普及センターからの現地情報をお届けいたします。

みやぎの

6月号

農業普及現場



普及活動標語

思いを形に、あなたのチャレンジを支えます。
応援します。農業普及

NEWS LETTER No.232 2026.6

紹介内容 (5/1~5/31)

1. みやぎの農業を担う次代の人材育成と革新技術の活用等による生産基盤の強化

- ① 先進的経営体等の育成及び経営安定化・高度化支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
 - 栗原農改：令和8年度栗原農業士会通常総会及び研修会が開催されました

- ② 新たな担い手の確保・育成・・ 1
 - 石巻農改：石巻地域生活研究グループ会員が「地域のちいさな販売会」に出店しました

- ③ 先端技術等の推進・普及による園芸産地の育成・強化・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
 - 大河原農改：2ha超の大区画水田で、水稻乾田直播の播種作業が行われました
 - 栗原農改：水稻優良品種決定現地調査（栗原）の田植えを行いました

- ④ 園芸産地の育成・強化支援・・ 2
 - 石巻農改：加工用ばれいしょの播種が行われました
 - 登米農改：亘理・山元果樹産地協議会通常総会が開催されました
 - 亘理農改：ねぎ栽培機械化一貫体系現地検討会（定植編）を開催しました
 - 登米農改：JAみやぎ登米花卉部会でスターチス現地検討会が開催！
 - 石巻農改：JAいしのまきミニトマト部会河北北上支部の現地検討会が開催されました
 - 大河原農改：加工用トマトの定植が行われました
 - 仙台農改：アスパラガスの産地形成に向けて
 - 大河原農改：仙南そらまめの現地検討会、講習会が開催されました！
 - 気仙沼農改：枝もの用クロマツ播種作業研修会が開催されました
 - 大河原農改：さつまいも栽培機械化一貫体系実演会を開催しました

- ⑤ 収益性の高い水田農業・畜産経営の展開支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
 - 石巻農改：水稻乾田直播栽培の播種作業が進む
 - 石巻農改：種子大麦生産ほの第1期ほ場審査を行いました！
 - 栗原農改：令和8年度の水稲採種育苗巡回を行いました
 - 大河原農改：角田市の農事組合法人で、水稻湛水直播栽培にチャレンジしています
 - 登米農改：大豆におけるディスク式一工程高速播種実演会を開催しました

- ⑥ 時代のニーズに対応した農畜産物の安定供給・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
 - 登米農改：水稻の優良品種決定現地調査の播種を行いました

- ⑦ 地域資源の活用等による地域農業の維持・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
- 気仙沼農改：気仙沼金のいぶき協議会の令和8年度総会が開催されました

2. 多彩な「なりわい」の創出や多様な人材・機関との連携による持続可能な農業・農村の構築

- ① その他・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
- 仙 台農改：第13回全国和牛能力共進会北海道大会に向けた24ヵ月早期肥育牛の幹旋会が行われました

1. 人材育成・生産基盤の強化

①先進的経営体等の育成及び経営安定化・高度化支援

- 令和8年度栗原農業士会通常総会及び研修会が開催されました
令和8年5月8日
栗原農業改良普及センター



令和8年4月17日、栗原市志波姫のエポカ 21 を会場に、令和8年度栗原農業士会通常総会及び研修会が開催されました。

通常総会では、前年度の事業内容報告及び本年度の事業計画等が議題として提案され、いずれも原案どおり承認されました。

研修会では、普及センター職員を講師に令和8年度普及指導計画について学び、持続可能で多彩な栗原農業の実践に向けて、普及センターが本年度取り組む活動内容を確認しました。

普及センターでは、今後も農業士の方々と連携や協力を重ね、栗原地域の農業振興のための活動を進めてまいります。

②新たな担い手の確保・育成

- 石巻地域生活研究グループ会員が「地域のちいさな販売会」に出店しました
令和8年5月26日
石巻農業改良普及センター



県石巻合同庁舎では毎月第3水曜日に「地域のちいさな販売会」を開催、地元の事業者が農林水産物を販売しています。令和8年5月20日、今年度1回目の販売会が開催され、石巻地域生活研究グループ連

絡協議会会員が出店しました。旬の野菜や農水産加工品、手づくりスイーツといった品揃えで、お客様には野菜のおすすめの食べ方やスイーツのこだわりをお伝えしながら販売、用意した商品は2時間半ほどで完売となり大変好評でした。次回の販売会には石巻地域4Hクラブ連絡協議会会員も出店し、野菜を販売する予定です。

③先端技術等の推進・普及による経営効率

- 2ha 超の大区画水田で、水稻乾田直播の播種作業が行われました
令和8年5月7日
大河原農業改良普及センター



水稻乾田直播栽培は、春作業の分散や省力化が期待できる技術として注目されており、県内では沿岸部や県北を中心に取り組みが拡大しています。

大河原農業改良普及センター管内でも、農地整備に伴い担い手への農地の集積・集約が進んでおり、整備後の大区画ほ場で水稻乾田直播栽培に取り組む事例が出てきています。

令和8年4月15日から21日にかけて、角田市佐倉地区の農事組合法人さくらファームのほ場で、乾田直播の播種作業が行われました。

播種したほ場は、農地整備を終えたばかりの最大2.2haの超大区画ほ場で、播種作業は、施肥、砕土、播種、鎮圧の4工程が一度にできる「スリッローラーシーダー」と、高速作業が可能な「グレーンドリル」の2種類の播種機を使って行い、その作業性を比較しました。

さくらファームの構成員は、それぞれの播種機の特徴を確認しながら作業を行いました。今後は、出芽状況や生育の違いなどを比べながら、どちらの播種方法が地域に合うか一緒に検討していきます。

普及センターでは、管内で広まりつつある乾田直播の事例を収集しながら、乾田直播栽培の技術力向

上と普及拡大を支援していきます。

○水稲優良品種決定現地調査(栗原)の田植えを行いました
令和8年5月19日
栗原農業改良普及センター



令和8年5月14日、栗原市高清水地区において、「水稲優良品種決定現地調査」の田植えを行いました。

本調査は、主要農作物種子条例に基づき、水稲の優良品種を選定するために実施しています。県内では10か所(9普及センター)で調査を行っており、そのうち北部平坦地帯の調査ほ場1か所を栗原農業改良普及センターが担当しています。

本年度は、将来の新品種候補として期待される4系統と、比較用の品種として「ひとめぼれ」を植えました。今後は、出穂期等の生育ステージの確認や、栽培特性・品質等の調査を進めていく予定です。

引き続き現場ニーズの把握に努めながら、生産者や地域に求められる水稲品種の普及に取り組んでまいります。

④園芸産地の育成・強化支援

○加工用ばれいしょの播種が行われました
令和8年5月7日
石巻農業改良普及センター



石巻管内の農業法人で、加工用ばれいしょの播種作業が行われました。令和8年産の作付面積は46ha(実植付面積39ha)にのぼり、今年も県内最大の産地となる見込みです。各圃場では徹底した排水対策や砕土作業が行われています。

今年度も高品質な加工用ばれいしょの出荷に向け、各生産者とも意欲的に栽培に取り組んでいます。

○亘理・山元果樹産地協議会通常総会が開催されました
令和8年5月8日
亘理農業改良普及センター



令和8年4月21日(火)にJA仙台逢隈支店において令和8年度亘理・山元果樹産地協議会通常総会が開催されました。

本協議会は、亘理町及び山元町内の生産者組織、両町、農地中間管理機構、JA、普及センターの7機関で構成され、果樹産地の維持・発展を目的に活動しています。国の支援事業を活用し、果樹の優良品目・品種への改植や園地整備を推進するため、令和3年12月に設立されました。設立以降の4年間では、4経営体が「果樹経営支援対策事業」及び「果樹未収益期間支援事業」を活用し、「いちじく」や「りんご」の新植・改植に取り組むなど、成果を上げています。

本年度は、国の「果樹農業の振興を図るための基本方針」及び県の「みやぎ園芸特産振興戦略プラン」に基づき、新たな果樹産地構造改革計画(令和8~12年度)を策定しました。従来から振興してきた「りんご」「ぶどう」「いちじく」「ブルーベリー」に加え、気候変動に対応して、新たに「なし」「もも」「かんきつ類の果樹」を振興する品目として位置付けています。

普及センターでは、関係機関と連携して、果樹産地の維持・発展に向けた取組を進めていきます。

**○ねぎ栽培機械化一貫体系現地検討会(定植編)
を開催しました**
令和8年5月12日
巨理農業改良普及センター



令和8年4月28日、岩沼市の農事組合法人林ライスにおいて、巨理農業改良普及センター及び農業・園芸総合研究所の主催により「ねぎ栽培機械化一貫体系現地検討会(定植編)」を開催しました。

同法人では、若手従業員の提案により新たにねぎ栽培を開始しており、検討会は「みやぎ園芸特産振興戦略プラン」の重点振興品目である「ねぎ」栽培の省力化や、低コスト生産技術の普及を目的としています。

検討会では、ヤンマーアグリジャパン株式会社の協力のもと、RTKトラクター(自動操舵)と簡易移植機「ひっぱりくん」2台を組み合わせた高効率な定植作業の実演や、農業・園芸総合研究所から農業用ドローンの飛行実演が行われました。

定植の作業時間は2~3時間/10aから約1時間/10aに短縮され、農薬の散布時間は従来のブームスプレーヤーと比べ約5分の1に短縮されるなど、大幅な省力化効果が期待されることが紹介されました。

参加者からは、作業効率や必要コストについて活発な質疑応答が行われたほか、「ひっぱりくんをトラクターに着けて使用するのを初めて見た」といった感想や、秋以降の収穫機や調製機の実演を希望する声が多く寄せられ、ねぎ栽培の機械化に対する関心の高さが伺えました。

今後も普及センターは、地域農業の未来を担う省力化技術の普及を支援してまいります。

○JAみやぎ登米花卉部会でスターチス現地検討会が開催!
令和8年5月12日
登米農業改良普及センター



スターチスの出荷最盛期に向けて、JAみやぎ登米花卉部会の生産者ほ場を会場に、令和8年4月30

日に現地検討会が開催されました。

これから収穫を迎える生産者2人のハウスを巡回し、現在の生育状況や今後の管理について意見交換が行われました。意見交換では昨今の気象への対応や、病害虫の発生状況や防除などについて活発に話し合われました。

普及センターからは、農薬の適正使用について情報提供を行い、特に効果的な使用時期、薬剤耐性及び抵抗性の発達を防ぐためのローテーション散布を呼びかけました。

普及センターでは、引き続き産地発展に向けた支援を行ってまいります。

○JAいしのまきミニトマト部会河北北上支部の現地検討会が開催されました
令和8年5月12日
石巻農業改良普及センター



令和8年4月20日に、JAいしのまきミニトマト部会河北北上支部の現地検討会が開催されました。

部会員4戸を巡回したところ、4月中旬定植のミニトマトはいずれも生育順調でした。使用している黄化葉巻病耐病性品種が持つ、初期生育が強くなりやすいという課題の発生を抑えるため、昨年の現地検討会で学んだ、かん水量を減らして穏やかな初期生育に誘導するを実践しており、みなさん適切に管理されています。

○加工用トマトの定植が行われました
令和8年5月13日
大河原農業改良普及センター



仙南地域では農地整備後の大区画ほ場で取り組む高収益作物の導入を推進しています。柴田町の農事組合法人「葉坂希望の郷」では、昨年引き続き食品メーカーと出荷契約を結び、加工用トマトの生産に取り組んでいます。

5月3日に定植作業が行われ、半自動トマト移植機を用いて慎重にポット苗を植え付けしました。法人では昨年よりも作付け面積を増やしており、今年には県平均を超える収量を目指しています。

普及センターでは関係機関と連携し、排水対策や省力化技術の導入も提案しながら、同法人の継続的な生産に向けた体系の確立を支援してまいります。

**○アスパラガスの産地形成に向けて
令和8年5月25日
仙台農業改良普及センター**



令和8年5月15日に、多賀城市の新規就農者ほ場を実証ほ場にして、アスパラガスの定植作業が行われました。

当日は、農業・園芸総合研究所（以下、農園研）で育苗された1年株を用いて、農園研指導の下、新規就農者、JA仙台、普及センターで協力しアスパラガスの定植を行いました。

JA仙台では、春先に収穫できる品目を模索しており、普及センターにおいても重点課題「気候変動に対応した野菜の生産振興」の一環としてアスパラガスを候補として検討しています。

今回の実証では、セル苗と鉢上げを経た大苗の2種類を供試し、大苗の早期収穫の状況を確認するものです。

取組から早い段階で収益を得ることが可能となれば、新規就農者にも取りくみやすい品目となり、かつ、産地形成に弾みがつくと期待しています。

アスパラガスの産地形成に向けて、関係者と連携し、引き続き支援を行ってまいります。

○仙南そらまめの現地検討会、講習会が開催されました！

令和8年5月29日
大河原農業改良普及センター



仙南地域のそらまめは、東北有数の産地として市場へ出荷されるほか、需要が高まる6月にかけてゆうパックで全国に配送されるなど、人気を集めています。

需要が高まる6月を前に、令和8年5月21日から25日にかけて、JAみやぎ仙南主催のそらまめ講習会及び現地検討会が蔵王地区、村田地区、白石地区でそれぞれ開催されました。

今作は、少雨による乾燥で莢の肥大が遅くなっていますが、病虫害防除等の管理の徹底により品質の良い莢が育っています。普及センターからは、より良いそらまめを出荷できるよう、収穫直前の管理について情報提供しました。また、現地検討会では各生産者のほ場を見学して生育状況を確認し、収穫直前の病虫害防除や収穫適期等について情報交換を行いました。

普及センターでは、今後も仙南地域におけるそらまめの品質向上に向けた支援を続けてまいります。

○枝もの用クロマツ播種作業研修会が開催されました

令和8年5月29日
気仙沼農業改良普及センター



令和8年5月15日、県主催による枝もの用クロマツ播種作業研修会が南三陸町で開催されました。

研修会には、宮城県クロマツ研究会、県関係者等10人ほどが参加しました。

南三陸町で枝もの用クロマツの生産に取り組んでいる株式会社 Pine Pro の後藤社長が講師となり、今年の播種作業について説明を行った後、播種作業の実演を行いました。

昨年までは、電動播種機やエンジン付き播種機を使用しましたが、出芽が良くなかったことから、今年は秋田県の法人で使っている溝掘、播種、覆土、鎮圧を一工程で行う牽引式の播種機を使用しました。これまで、播種、覆土、鎮圧作業をそれぞれの機械で行っていたのとは違って、効率よく播種作業が行われました。

普及センターでは、枝もの用クロマツ生産を拡大に向け、引き続き支援を行っていきます。

○さつまいも栽培機械化一貫体系実演会を開催しました

令和8年5月29日

大河原農業改良普及センター



令和8年5月26日、川崎町内にて「さつまいも栽

培機械化一貫体系実演会」を開催しました。

この実演会は、農業・園芸総合研究所露地園芸部の試験の一環として、またヤンマーアグリジャパン株式会社の協力を得て開催したもので、RTK（高精度測位技術）を活用した「畝立て同時マルチ展張」と「さつまいも専用半自動定植機」の実演を行いました。

当日は約50名が参加し、RTKの活用により精度高く成形されていく直線的な畝や、立ったままの姿勢で行える定植作業を見学しました。

普及センターでは、今後も仙南地域のさつまいも生産拡大に向けた支援を続けてまいります。

⑤収益性の高い水田農業・畜産経営の展開支援

○水稻乾田直播栽培の播種作業が進む

令和8年5月12日

石巻農業改良普及センター



石巻管内は乾田直播栽培の普及が進み、令和7年には概ね1500クタールで取り組まれ、宮城県内の約4割を占めています。

播種作業は例年3月中旬頃から始まり、4月中旬頃には終了しますが、令和8年は4月の降雨日数が多く、4月下旬まで播種作業が行われています。播種時期の早いほ場では4月下旬から除草剤散布作業が行われています。

普及センターでは、新規取組者を対象にプロジェクト活動として、除草対策や施肥技術等を支援してまいります。

○種子大麦生産ほの第1期ほ場審査を行いました！

令和8年5月13日

石巻農業改良普及センター



石巻管内の農業法人5法人を対象に種子大麦のほ

場審査を行いました。当管内では石巻市で24.8ha、東松島市で6.5haの種子大麦が生産されています。

大麦の種子生産ほでは、出穂期と糊熟期の2回ほ場の審査を行います。今回は1回目の審査(出穂期審査)を行いました。審査には生産者、JAいしのみき職員が立ち会い、生育状況や栽培管理状況、変種・異品種の有無、病害虫等について確認をしました。播種の遅れ等により一時は生育の遅延傾向が見られましたが、その後は順調に回復し、全てのほ場が合格となりました。

今後は、適切な赤かび病防除と適期刈取に向けた準備を進めるよう指導を行います。

○令和8年度の水稲採種育苗巡回を行いました 令和8年5月15日 栗原農業改良普及センター



栗原農業改良普及センターでは毎年、種子生産用の苗の生育状況を、種子生産者、JA、普及センターで確認する水稲採種育苗巡回を行っており、今年も4月30日、5月1日に一迫・金成で実施しました。

今回の巡回では一部の苗で高温による生育障害が確認されましたが、苗の生育状況は概ね良好でした。

今年からは一迫地区で栽培品種を切り替える生産者が多く、漏生苗(前年度に作付けした品種がほ場に残り、今年発芽した苗。)の発生に注意が必要です。その対策として代かき直後にプレラクチロールを含む除草剤を処理し、7日以上の間隔を置いてから再度代かきを行うことを種子生産者及び関係者で確認しました。

普及センターでは、今後も種子生産者や関係機関と連携し、優良種子の安定生産を支援してまいります。

○角田市の農事組合法人で、水稲湛水直播栽培にチャレンジしています 令和8年5月28日 大河原農業改良普及センター



角田市の農事組合法人さくらファームでは今年度新たに、乾田直播、湛水直播の両方の栽培技術を取り入れ、農地整備事業後の大区画ほ場で水稲生産に取り組んでいます。

水稲直播栽培は、育苗ハウスを始めとした水稲育苗に係る資材や作業時間を大幅に削減することが可能であり、今後見込まれる労働力不足への対応として県内でも取り組みが増えてきています。

さくらファームでは4月中下旬に乾田直播栽培の播種を行い、その約1か月後の5月下旬に湛水直播栽培の播種を行いました。播種作業は2日間にわたり行われ、角田市内でドローン作業を請け負う担い手に委託し、代かき後の水田にドローンで薬剤処理済みの種もみを播種しました。法人の構成員は、ドローンの作業スピードに驚きながら、播種後の水管理や除草体系についてJAの担当者より指導を受けていました。

さくらファームでは乾田直播、湛水直播の両方の生産を行い栽培技術の習得を目指すと共に、法人の経営に合った生産方法について検討を行う予定です。

○大豆におけるディスク式一工程高速播種実演会を開催しました 令和8年5月28日 登米農業改良普及センター



令和8年5月22日に、有限会社只野農場様のご協力のもと、大豆のディスク式一工程高速播種機の実演会を開催しました。管内生産者、JA等関係機関担当者など、約30名が集まりました。

当日はあいにくの天候で実演はできませんでしたが、講師の農研機構九州沖縄農業研究センターの松尾直樹様からは、上記播種法の原理やメリット、他県での事例について、動画を交えて詳しく説明いただきました。また、有限会社只野農場代表取締役只野利弥様からは、導入に至った経緯や、慣行播種した大豆

との生育差についてお話いただきました。

湿害対策だけでなく、麦刈取後に大豆を播種する場合に、麦稈の処理をせずに一工程で播種ができるため燃料代や作業時間の節減にもつながる技術です。

普及センターでは、今後も大豆の収量・品質の向上を目指した取組について支援を行ってまいります。

⑥時代のニーズに対応した農畜産物の安定供給

○水稲の優良品種決定現地調査の播種を行いました

令和8年5月26日

登米農業改良普及センター



古川農業試験場では、昭和2年に水稲育種を開始して以来、96年間に「ササニシキ」や「ひとめぼれ」等48品種を育成するなど新品種の開発に取り組んできました。近年の異常気象、特に年々暑くなる夏の気温は、高温障害を引き起こし、品質や食味を低下させます。そこで、同試験場では令和元年より高温に強い米の育種が始まりました。

今年度、登米地域でも高温耐性を持った良食味米の優良品種候補として現地栽培試験を実施するため、生産者のご協力をいただき、5月11日に播種を行いました。

⑦地域資源の活用等による地域農業の維持

○気仙沼金のいぶき協議会の令和8年度総会が開催されました

令和8年5月7日

気仙沼農業改良普及センター



「気仙沼金のいぶき協議会」の令和8年度通常総会が、令和8年4月21日に開催されました。同協議

会は「金のいぶき」のブランド化を推進するために令和5年4月に設立され、気仙沼市の金のいぶき生産者、卸小売業者、気仙沼市産業部農林課、JA新みやぎが構成員となっています。

総会では、令和8年度も引き続き、マイクロプラスチック海洋汚染を防止し、プラスチックコーティングされた肥料を使用しない環境に配慮した「金のいぶき」の栽培に取り組むことを確認しました。

小売業者からは、「金のいぶき」を粉状に加工し、団子やスムージーなどの商品に活用している事例が紹介されました。加工品の一部はふるさと納税の返礼品にも採用されており、「粉状にして扱いやすい」という金のいぶきの特性を活かした商品の広がりが期待されています。

普及センターでは、地域の特産品として金のいぶきの生産支援を引き続き行っていきます。

2. 持続可能な農業・農村の構築

①その他

○第13回全国和牛能力共進会北海道大会に向けた24ヵ月早期肥育牛の斡旋会が行われました

令和8年5月1日

仙台農業改良普及センター



第13回全国和牛能力共進会（以下「全共」という）が令和9年に北海道で開催されますが、牛肉の品質を競う肉牛の部は、一般的な肥育期間である30ヶ月齢程度よりもかなり短い、25ヶ月齢で出品されます。

6ヶ月程度も肥育期間を短縮することは、飼育管理の上で難しい技術であることから、県内各地域約300戸から15戸の肥育農家が厳選され、全共での日本一獲得を目指し、肥育管理に取り組むこととされました。

当普及センター管内では唯一、大和町の（有）根元ファームが全共出品予定者に選ばれ、4月14日（火）に繁殖農家で育てられた出品予定牛2頭の引き渡しが行われました。今後、当普及センターも定期的な巡回調査を実施しながら、悲願の肉牛の部日本一獲得に向けた支援に取り組んでまいります。

普及指導員が県内9か所の普及センターで、農業者を支援しています。

<大河原>
〒989-1243
大河原町字南 129-1
TEL:0224-53-3519

<亘理>
〒989-2301
亘理町逢隈中泉字本木9
TEL:0223-34-1141

<仙台>
〒981-0914
仙台市青葉区堤通雨宮町4-17
TEL:022-275-8320

<大崎>
〒989-6117
大崎市古川旭四丁目1-1
TEL:0229-91-0727

<美里>
〒987-0005
美里町北浦字笹館5
TEL:0229-32-3115

<栗原>
〒987-2251
栗原市築館藤木5-1
TEL:0228-22-9404

<登米>
〒987-0511
登米市迫町佐沼字西佐沼 150-5
TEL:0220-22-8603

<石巻>
〒986-0850
石巻市あゆみ野5-7
TEL:0225-95-7612

<気仙沼>
〒988-0181
気仙沼市赤岩杉ノ沢 47-6
TEL:0226-25-8068



***各農業改良普及センターには、「地域の食と農の相談窓口」を設置しております。食や農に関して知りたいことがありましたら、上記連絡先にお問い合わせください。**

みやぎの農業普及現場 NEWS LETTER No.232

発行日:2026年6月29日

発行:宮城県農政部農業振興課

編集:宮城県農政部農業振興課普及支援班

TEL:022-211-2837 FAX:022-211-2839

E-mail : gbfs@pref.miyagi.lg.jp